

## 平成27年度 「大阪市統一テスト」における 大桐中学校の結果の分析について

大阪市による「大阪市統一テスト」について、平成27年10月15日（木）に、第3学年を対象として実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校がテスト結果やテスト結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、テスト結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

### 1 テストの目的

- ① テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成28年度入学者大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- ② 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

### 2 テストの対象

- ・ 原則として、大阪市立中学校及び特別支援学校中学部の第3学年

### 3 テストの内容

- ・ 国語、社会、数学、理科及び英語の5教科

# 平成27年度「大阪市統一テスト」検証シート

|     |           |
|-----|-----------|
| 学校名 | 大阪市立大桐中学校 |
|-----|-----------|

|        |     |
|--------|-----|
| 生徒数(人) | 146 |
|--------|-----|

## 平均正答率（点）

|     | 国語   | 社会   | 数学   | 理科   | 英語   |
|-----|------|------|------|------|------|
| 学校  | 61.4 | 54.2 | 50.1 | 49.4 | 47.9 |
| 大阪市 | 64.7 | 57.4 | 59.3 | 55.6 | 59.8 |

## 結果の概要

全教科とも大阪市平均に及ばなかった。教科ごとにみると、英語…11.9ポイント、数学…9.2ポイントと差が大きい。次いで理科…6.2、国語…3.3、社会…3.2となる。特に英語の得点分布（次ページ参照）では20%以上30%未満での大阪市平均との差が大きいのが分かる。数学についても20%以上30%未満での差が顕著である。この傾向は、理科・社会でも同じである。さらに数学・英語とも60%以上の正答率10%ごとの比較では、すべて下回っているとともに、80%以上の正答率になると、大阪市平均との差が大きい。

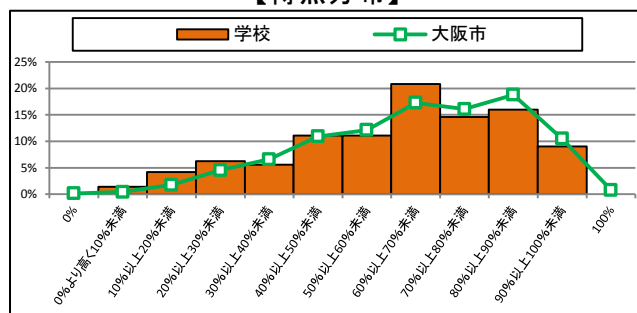
## 成果と今後取り組むべき課題

大阪市平均との差が少なかった国語・社会の得点分布をみると、国語での本校の最頻値（一番多い部分）は60%～70%、大阪市は80%～90%で2階級低いことが分かる。また、社会の得点分布では全体的に2階級低位にあることが分かる。このことから、国語・社会ともに、基礎・基本の定着に力をいれつつも、中位層の学力向上をどう図るかが課題となる。また、理科では20%～30%の数が大阪市に比して多いとともに、80%以上の数が極端に少なくなる。基礎学力の定着とともに発展的な学習にも対応したい。数学・英語については50%未満の生徒が多数いる。基礎・基本の定着や家庭学習について取り組んできてはいるが、まだまだ不十分なことが明らかになった。今後課題の精選や授業法の改善も含めた取り組みをさらに進めたい。

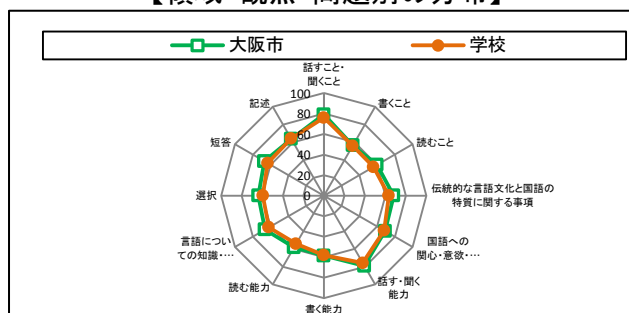
# 【各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

## 【国語】

【得点分布】

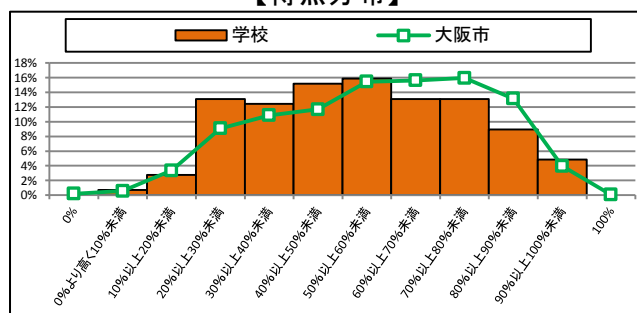


【領域・観点・問題別の分布】

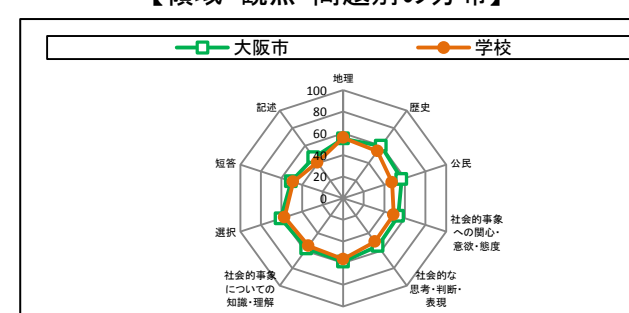


## 【社会】

【得点分布】

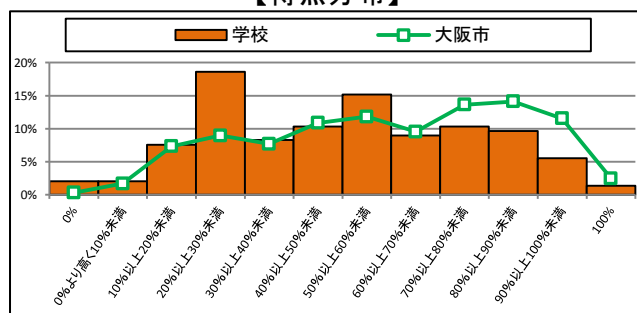


【領域・観点・問題別の分布】

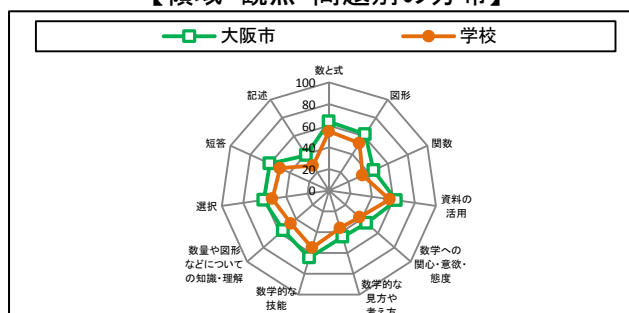


## 【数学】

【得点分布】

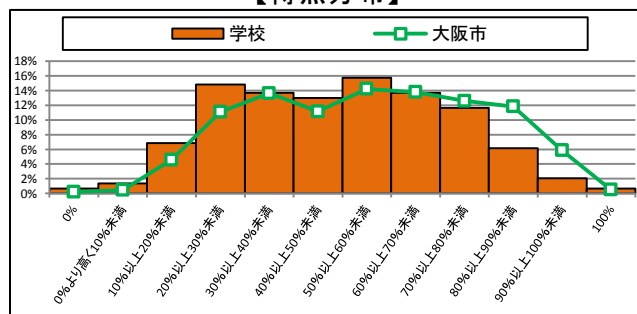


【領域・観点・問題別の分布】

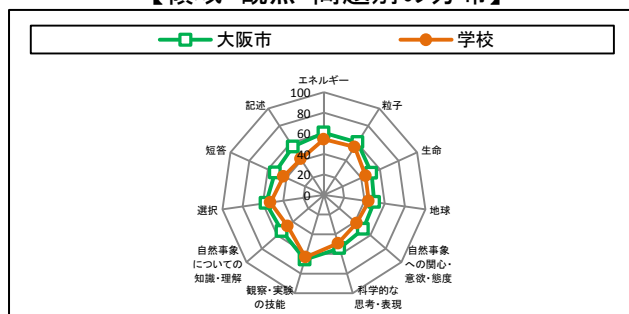


## 【理科】

【得点分布】

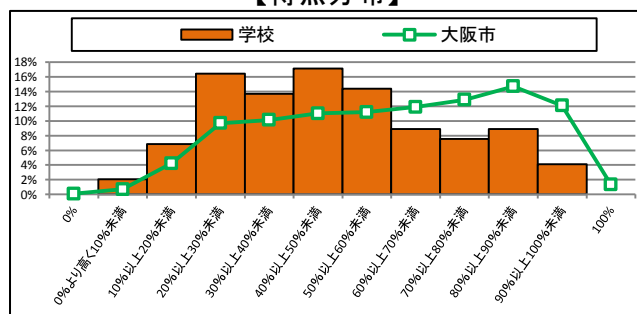


【領域・観点・問題別の分布】



## 【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

